

※会員マイページ (<https://www.jspen.or.jp>)にログインして、
「会員コンテンツ」>「学術集会プログラム集・抄録 検索」をクリック

MENU

ログインID:
[ログアウト](#)

[トップページ](#)

[様へのお知らせ](#)

[会員情報](#) <

[支払・状況確認 \(年会費\)](#)

[当日開催/その他参加歴](#) <

[eラーニング](#) <

[資格](#) <

[施設](#) <

[会員コンテンツ](#) ∨

NEWS LETTER

[学術集会 プログラム集・抄録 検索](#)

[議事録](#)

[設定](#) <

[事務局へのお問い合わせ](#)

[アンケート](#)

トップページ

[過去のお知らせ](#)

※ 最新の5件まで表示されます。

2026-08-10	【2026年度】支部学術集会 プログラム抄録集 IDとパスワードについて (更新: 2026年7月23日)
2026-02-02	『ESPEN Highlight Topics 2025』eBook公開のお知らせ
2025-08-17	【関越支部】第13回関越支部学術集会 公式ホームページを開設しました

会員情報 [登録情報の確認](#)

会員番号	会員区分	正会員
氏名 (漢字)	所属先	
支部会	支部会 (4月1日時点)	
メールアドレス	入会年月日	

※赤枠にご自身の名前を入力。 🔍マークをクリック



抄録アーカイブ

A A A

JSPEN

Program and Proceedings

検索テキストを入力

詳細検索

プログラム一覧

心 学術集会 抄録集
ダウンロード
(第36回 以降)

📁 学術集会 プログラム集
Supplement ライブラリ
(第34回 以降)

--開催年-- --プログラム種別-- 絞り込みを解除する

プログラム名	開催年
理事長講演 JSPENの持続的発展に向けた取り組み	第41回日本栄養治療学会学術集会 (2026年)
会長講演 医療を貫く一本の線 - 臨床・研究・デバイス創造の軌跡	第41回日本栄養治療学会学術集会 (2026年)
葛西森夫記念講演 低栄養診断の歴史と国際標準化への挑戦 - 古典的概念から評価基準の進化、そしてGLIMへ -	第41回日本栄養治療学会学術集会 (2026年)
武蔵塚一記念教育講演 The GLIM Criteria: Past Developments and Future Perspectives	第41回日本栄養治療学会学術集会 (2026年)
特別講演 01 トキメキファインダーから見た医療機器開発にまつわるトキメキと経済学	第41回日本栄養治療学会学術集会 (2026年)
特別講演 02 地域医療を支える遠隔ICUから始めるイノベーション	第41回日本栄養治療学会学術集会 (2026年)
特別講演 03 AIが支える栄養治療の現在と未来	第41回日本栄養治療学会学術集会 (2026年)
特別講演 04 ビタミンDサプリメントは癌の再発・死亡を抑止できるか?	第41回日本栄養治療学会学術集会 (2026年)
大柳治正記念学術振興アワード受賞講演	第41回日本栄養治療学会学術集会 (2026年)
YOUNG INVESTIGATOR AWARD 2026受賞講演 【協賛：ニュートリー株式会社】	第41回日本栄養治療学会学術集会 (2026年)
未来研究プロジェクト 2025年度研究助成授与式	第41回日本栄養治療学会学術集会 (2026年)
未来研究プロジェクト 2023年度成果発表	第41回日本栄養治療学会学術集会 (2026年)
国際セッション 01 アジアの現状と展望 (IN-01-01~IN-01-04)	第41回日本栄養治療学会学術集会 (2026年)

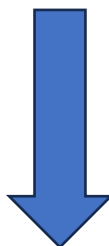
検索結果「 」

人名 [1]

人名 [1]



該当の名前をクリック



< 前へ戻る

> 印刷

< 前の人名 次の人名 >

▶ 第41回日本栄養治療学会学術集会（2026年）

シンポジウム 01

栄養治療におけるイノベーション
(5-01-01~5-01-10)

● 2026年2月13日(金) 8:30 - 10:30 ● 第1会場 | パシフィコ横浜 ノース 1F G1~G4

P-02-06

胃切除体組成変化と予後に関する後ろ向き観察研究

● 2026年2月13日(金) 10:00 - 11:45 ● ポスター会場 | パシフィコ横浜 展示ホール 1F 展示ホールCD

該当の演題をクリック

教育講演 02

ESPEN's recent initiatives and future perspectives

● 2026年2月13日(金) 10:40 - 11:10 ● 第7会場 | パシフィコ横浜 アネックス 2F F205+F206

学術セミナー 04

ガットフレイルをご存知ですか？その概念と対策：ポストバイオティクスの可能性【共催：株式会社 明治】

● 2026年2月13日(金) 12:50 - 13:50 ● 第8会場 | パシフィコ横浜 ノース 3F G303+G304

※「印刷」をクリックすると印刷することが可能

● 2026年2月13日(金) 10:00 - 11:45

第41回日本栄養治療学会学術集会 / ポスター

ポスター 02

体組成分析 2

(P-02-01~P-02-07)

📍ポスター会場 | パシフィコ横浜 展示ホール 1F 展示ホールCD

P-02-06

胃切除体組成変化と予後に関する後ろ向き観察研究

[演者]

[共同演奏] 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1

1:

【目的】

開切後の体組成は、体重・脂肪量が早期に減少し、最終量が低下する。また、体脂肪率であるECW/TBW (E/TB) の高値は予後不良とされる。一方で、術式ごとの術後体組成の変化や回復度に関する知見は限られている。本研究では術式ごとの体組成増減と予後との関連を考察した。

【对象・方法】

2021/4～2023/3に根治切除を受けた胃癌症例を対象とした後ろ向き研究。InBody 720で術前・術後6か月・12か月に実施し、術式（幽門側胃切除（DG）/噴門側胃切除（PG）/胃全摘（TG））ごとに、術前、術後6ヶ月、術後12ヶ月の体組成変化を比較し解析した。術後12か月をランドマークとした全生存をCox比例ハザード回帰分析で解析し、主要アウトカムとした。施設内の倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

124例（男性 89、女性 35）。術式内訳はDG 85例、PG 14例、TG 25例。年齢中央値72歳（Range：35-88歳）。術前と術後1年の体組成変化の比較では、TGはDGに比べ脂肪減少量が有意に大きかった（ $p=0.03$ ）。術後6～12か月の比較では、E/T比の低下率はDGがPGより有意に高く（ $p=0.03$ ）、脂肪量がDGで上昇する傾向を示した（ $p=0.08$ ）。予後解析では、術前から術後6か月の体重減少（HR 1.031、95%CI 1.006-1.056、 $p=0.01$ ）、脂肪減少（HR 1.029、95%CI 1.003-1.056、 $p=0.03$ ）、E/T比上昇（HR 1.375、95%CI 1.055-1.791、 $p=0.02$ ）が全生存の有意なリスク因子であった。さらに術前から術後1年のE/T比上昇（HR 1.44、95%CI 1.048-1.98、 $p=0.02$ ）も全生存リスクと関連し、術後6～12か月の体重回復率が高いほど全生存リスクは低下した（HR 0.996、95%CI 0.993-0.999、 $p=0.02$ ）。

【結語】

術式別に術後6か月時点の回復度に差が認められ、術後1か月時点での悪いE/T比（術前比の上昇）は予後不良と関連した。周術期の体液・栄養管理や再建法選択の検討材料となる可能性がある。